

学校だより 6月号

令和3年6月1日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

TEL 048 (548) 1004

FAX 048 (547) 1467

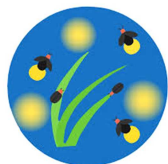
URL

<http://koya-e-konosu.edumap.jp/>

e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

毎月19日は「食育の日」です

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成



世界に誇る日本人の感覚 ～学校教育の「清掃」と「給食」が創り上げたもの～

校長 池澤 道弘

早いもので令和3年度が始まって2か月が経ちました。今年の5月は、梅雨入りを思わせるほど雨模様の日が多かったため、青空に新緑が映える爽やかさを堪能することがあまりできず、とても残念に感じています。はっきりしない天気の日も少なくないですが、子どもたちは5日の運動会に向けて、日々練習を頑張っています。感染症対策のため、昨年度同様、人数の制限はありますが、当日は子どもたちの練習の成果をご覧いただければと存じます。

さて、今回は4月10日（土）に「世界一受けたい授業」という番組（日本テレビ）で放送された「日本人の良さ」を再認識するお話を紹介したいと思います。ご覧になった方も多いかと思いますが、番組は「新型コロナ収束後行きたい国・地域」を調査したところ、日本が46%で断トツの第1位（2位韓国22% 3位台湾17%）であることから始まります。その理由は何なのか、「日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと」の著者で、ジャーマン・インターナショナル 代表取締役のルース・マリー・ジャーマン先生を迎えて紐解いていくという構成になっています。番組の中では、その理由として「礼儀正しい国だから」「清潔だから」「治安が良いから」「料理がおいしいから」「思いやりの心があるから」の5つが挙げられています。その中に2つ学校教育に大きく関わる部分が紹介されていました。それは「清潔だから」と「料理がおいしいから」の2項目に関係します。

「清潔だから」の項目では、外国人が驚くこととして「町中にゴミ箱がとて少ないのにきれい」であることが紹介されます。外国では「ゴミ箱がなければゴミを持ち帰る」という文化は根付いていないようで、ゴミが落ちていないことに衝撃を受ける人が多いようです。また、「ラグビーワールドカップ2019日本大会」で、日本人のサポーターが応援席のゴミ拾いをしている様子が世界中で高く評価され、このことがきっかけで他国の選手もロッカールームの清掃をするようになったことも紹介されていました。ラグビーワールドカップ以前にも「世界一きれいな羽田空港」や「新幹線清掃員7分間の奇跡」など、日本の清掃力は世界から高い評価を受けています。ルース・マリー・ジャーマン先生は、その根底は「学校における清掃活動」であり、小さな頃から「自分たちで使うところは自分たちできれいにする」という習慣が身に付いていることが大きいと述べています。

また、「料理がおいしいから」の項目では、日本食が「ユネスコ無形文化遺産」に登録されるなど、日本には食を大切にする文化が根付いており、その根底にはやはり「食事の楽しさ」「マナー」「感謝」が含まれた素晴らしい教育活動である、日本の「給食」のシステムが深く関わっていることが紹介されています。

日本人にとっては至極当たり前である学校における「清掃」や「給食」ですが、世界から称賛される日本人の行動の根底を担っていることに、学校教育に携わる者として喜びを感じるとともに、今後も大切にしていきたい教育活動であることを再認識しました。

ご家庭におかれましても、「礼儀」や「親切」など、昔から受け継がれてきた日本人としての感覚の大切さを折に触れてお話いただければ幸いです。

